

**令和3年度
浦添市まちづくりアカデミー**

事業報告書

**令和4年1月
市民協働・男女共同参画課**



目次

1 アカデミー開設の経過と実施状況	1～2
2 目標の達成状況	2
3 チラシ及び講座内容・日程	3～4
4 講座の記録	5～23

【参考資料】

第1回 鼎談 テープ起こし	24～35
浦添市まちづくりアカデミー実施要綱	36～37
令和3年度浦添市まちづくりアカデミー定期講座実施要領	38～39

1 浦添市まちづくりアカデミー開設と実施状況

(1) 開設の経緯

本市では、平成30年3月に策定した第四次浦添市まちづくり生涯推進基本計画において、『『まちづくり協働』による『共生・循環型社会』の実現』を取組方針として掲げ、『『てだこ市民大学』の拡充と講座の充実』を取組内容の一つとした。

平成30年度、「てだこ市民大学」における10年間の実績を踏まえ、まちづくり協働に必要となる知識及び手法を実践的に学ぶ「大学院」について検討した結果、令和元年度に「浦添市まちづくりアカデミー」として開設することとした。

そして令和3年度、「第2回浦添市まちづくりアカデミー」が、民間団体である「一般社団法人まちづくりうらそえ」の受託により、浦添市と協働で開催された。

(2) 実施状況

令和3年9月8日から月2回、12月1日までの全7回、『私がまちを輝かせる』をテーマに、まちづくり生涯学習と市民協働の推進を図るため、市民が市民協働に対する理解をより深め、その取り組みに必要なとなる知識及び手法並びにその実践について学ぶことを目指した。

受講対象者を、まちづくり生涯学習及び市民協働に関心のある方、まちづくりに取り組む意欲のある方とし、定員30名に対して25名の応募があり、20代から70代の幅広い年代の方が参加した。

企画当初、全講座対面での開催を予定していたが、コロナ禍の感染予防のためリモート開催となり、25名の受講者への配信に試行錯誤を繰り返した。受講者によっては、PC 設備がなかったりネット環境が整っていない等、まずは受講環境を整えるところから始めなければならなかった。7回の講座中前半の4回目まではリモートであったが、コロナ禍が多少収まってきた 5 回目の視察交流以降は、対面開催で受講者にとって充実した講座になったと考える。

終盤に入った6回目、受講者それぞれが考える、「浦添市の課題」をどのように解決していけるか、ペアワークの発表を板書してもらい「ことばの見える化」を図った。最終回の7回目は、市役所1階ロビーで講座の経過発表と、市民活動クリニックを行った。

ア 期間及び講座数

令和3年9月8日～12月1日 全7回(鼎談、講義、ワークショップ他)

※初回から4回まで新型コロナ感染拡大防止の観点によりリモート形式

※5回、6回対面形式、7回目浦添市役所1階ロビーで展示発表及び市民活動クリニック

イ 受講者の年代別人数及び平均年代

年代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	合計	平均年代
人数	3	6	9	1	5	1	25	40代

(単位:人)

ウ テーマ、目的と目標

【テーマ】

『わたしがまちを輝かせる』

～私も参画したい浦添市の地域協働の取り組みとしくみ～

【目的】

- ① まちづくり協働に必要となる実践的な知識及び手法を知ること。
- ② 市民の視点で地域を知り、課題解決に向けて実践できるようになること。
- ③ まちづくり協働に取り組む者と連携することができるようになること。

【目標】

- ① 受講した市民が協働によるまちづくりに積極的かつ効果的に関わること。
- ② 受講した市民が地域の課題を自らの問題として捉え、まちづくり協働に取り組むことができるようになること。
- ③ まちづくり協働を理解し、取り組む市民の連携が構築されること。

2 目標の達成状況

受講者アンケートより、市民協働の地域づくりに関心がある方や、浦添ならではの活性化を図ることに参加できればと考えている方、楽しみの声が多くあり積極的な参加が伺えた。情報共有・関係性の構築・対等性など受講者自ら分析し「じゃあ何をすればいいの？」と気づきや学び、行動することの意義を考える受講者もいた。

SDGsを取り上げたワークショップ(講師:幸喜穂乃氏)では、受講者それぞれが関心のある社会課題、地域課題を言語化し、6回目の対面講座の時には課題に対する解決策を更に文字として見える化(講師:宮道喜一氏)した。そのことによりこれからの活動に意欲が湧いてきたという受講者もあり、参加者全員がそれぞれに感じる課題の共有により、今後の活動に生かされるような情報交換が受講者間で行われ、連携していく場面がみられるようになった。最終講座には積極的に市民や行政職員に声掛けをして、アカデミーの取り組みや協働することの大切さを話していた。

閉講式では受講者により「活動資金を来年のまちづくりプランに応募して獲得したい」と、決意表明も行われ、拍手喝さいで締めくくられた。

以上の事から、まちづくり協働に必要な知識及び手法を学び受講者自ら取り組む、きっかけが出来たと考え、講座の目標を達成したと思慮します。



応募締め切り：令和3年 8月4日（水） 17時まで

まちづくりアカデミーについて

まちづくり生涯学習と市民協働の推進を図るため、
市民が市民協働に対する理解をより深め、その取り組みに必要となる
知識および手法並びにその実践について学ぶ講座です。

受講料
5000円



＜対象＞

- ・本市のまちづくり生涯学習および市民協働に関心のある方
- ・本市のまちづくりに取り組む意欲のある方

浦添市まちづくりアカデミー申し込み用紙

フリガナ	
氏名	
住所	〒
連絡先	TEL
	E-Mail
志望動機	

※ お申し込みは、FAX またはメールにて。詳細は裏面へー

2021年度 浦添市まちづくりアカデミー 定期講座

回	形態	日時	場所	講師	講座内容
第1回	開会 講話 (鼎談)	9/8 (水) 19時～21時	ハーモニー センター	松本 哲治 浦添市長 前城 充 氏 (与那原町政策調整監) 大城 喜江子	オリエンテーション そもそも協働ってなんだろう？ 市長と充と喜江子の協働鼎談
第2回	講話	9/22 (水) 19時～21時	ハーモニー センター	宮城 仁太郎 氏 野口 萌香 氏 (Bee Free)	若者が取り組む地域協働の活動 (若者が抱える問題の 取り組む事業展開！)
第3回	ワーク ショップ	10/6 (水) 19時～21時	ハーモニー センター	合同会社 Happy joy ヒトコト専門家 代表社員 幸喜 穂乃 氏	地域課題に気付いた時 その時どうする？ みんなで考えよう！ 一緒に動き出そう！！
第4回	講話	10/20 (水) 19時～21時	ハーモニー センター	一般社団法人 まちづくりうらそえ 代表理事 大城 喜江子	協同・共同・協働 地域と一緒に考え行動する 防災訓練
第5回	講話 視察 交流	11/7 (日) 10時～13時	なは市民 協働プラザ	饒波 正博 氏 知念 忠彦 氏 (なは市民協議会) 渡嘉敷 博美 氏 (なは市民協働プラザ)	市民と行政の協働の取り組み なは市民協議会の発足と活動
第6回	ワーク ショップ	11/17 (水) 19時～21時	ハーモニー センター	松本 哲治 浦添市長 宮道 喜一 氏 (NPO 法人まちなか 研究所わくわく)	私も一緒につくりたい浦添市！ 市民と行政とともに！
第7回	活動発表 閉講	12/1 (水) 14時～18時	浦添市役所	前城 充 氏 大城 喜江子	6回目の講座発表展示 地域活動の相談コーナー

※新型コロナウイルス感染拡大の状況などにより、日程及び講座などを変更する場合があります。

☎ お問い合わせ・お申込み ☎

主催：浦添市 市民協働・男女共同参画課
受託者：一般社団法人 まちづくりうらそえ

TEL：090-2512-3026 (大城)

FAX：098-874-7610

Mail：u.machiaca.03@gmail.com

令和3年度 浦添市まちづくりアカデミー
第1回

9月8日(水) 18時～20時
ZOOM 開催

第1回講座 『そもそも協働ってなんだろう？市長と充と喜江子の協働鼎談』

講師：松本 哲治 浦添市長
前城 充 氏(与那原町政策調整監)



協働とは。。。。

喜びや夢、楽しみだけでなく、
苦しみもハードルも限界も共有
しながら何かを作り上げていく
プロセスが本当の協働ではないか。
本音のトークができないと協働が
できないと思う。

協働のメリット(行政側として)

行政の方から住民の皆さんに
データなどを使って何度も
情報を共有することで、住民が
→知らなかったことを知ることが
出来る
→興味を持つ
→自分の経験値から意見を出して
くれるようになる。
→本人が成長していると感じる。
住民同士が意見を言い合って、
建設的な話ができるようになって、
まとまっていく。
その過程で、職員も成長していく。

協働したいときの心構えは？

市役所と協働したいときに、
市役所職員にも**メリット**が
あることを示せると
協働しやすくなる。



欲しい公共は自分で作っちゃおう！
(自家製公共づくり)



本の紹介

通常であれば、
行政が行う公共を
自分で作り上げている方の
本を紹介していただきました！



困りごとを減らして
それぞれの地域で暮らし
続けられるための、住民協働の
地域づくりに関心があり、
そのヒントの芽生えがあったように思います。



自分たちの
まちの
ことを考え、
自分たちで決め、
そして
自分たちで
行動する

地域で力を合わせていくことの
素晴らしさ、その仲間づくりや
繋がりのために、お互いが
理解しあう大変さを乗り越えて
いくことが大事なんだと思いました。

この街全体のこと、
未来のこと、
子ども達のこと等を
考える地域愛が
大切である

「マイパブリックとグランドレベル 田中元子著 晶文社」

(前城充氏から紹介)

第1回 浦添市まちづくりアカデミー アンケート結果
第1回目のアンケートは、15名の方から提出がありました。

1. 年代をお聞かせください。

20代：2名 30代：2名 40代：4名 50代：3名
60代：2名 70代：2名

2. この講座を何で知りましたか。

ネット：3名 チラシ：3名 友人：3名 広報うらそえ：3名
その他：3名

3. 講座の受講を決めた理由は何ですか。（複数回答あり）

興味がある：9名 講師がよい：7名 面白そう：2名 協働を知りたい：2名
友人に誘われた：1名 その他：0名

4. 感想

・松本市長、前城充さんのお話が大変分かりやすく市民として又我が地域でできること
充さんが最後におっしゃられたまず動くことそしてあとで考える大変大事なことです
同感です。

・浦添市長 松本哲治さんの役所、職場の話が聞けていままでの市長、役所へのイメージが
変わりました。批判や石を投じている人たちへのイメージ（見かた）も変わりました。

・松本市長や前城さんの貴重なお話が聞け、自分でできることから取り組んでいこうと思
いました。

・市長さんはとても明るくて、話し方がわかりやすい。テーマはとても大切でした。

・良い！第1回目として、市と市民が協働していく課題が見えてきました。

・浦添市では初めての取り組みだと考えます。市民協働がスタートしたように思います。

・市長、職員、行政の立場のお二人のお話は、地域で力を合わせていくことの素晴らしさ、
その仲間作りや繋がりのために、お互いが理解しあう大変さを乗り越えていくことが大事な
んだと思いました。ありがとうございます。

・受講生に知人も多く「浦添をより良い街にしたい」と思う同志が多くいることを知り、
励みになった。市長の意見充さんの経験など市政の経験談ではあったが、ほかの組織でも共
通する考え方で、ためになった。

・今回講座に参加させていただき、市長のお話を聞かせていただく機会もあまりないので
大変貴重な時間となりました。私は、浦添市にまだ今年参加させていただいたばかりですが、
行政と市民との距離感がとても近く感じております。地域によって、さまざま異なることも
多くありますが、浦添市ならではの独自路線で、活性化を図ることに参加できればと考えて

おります。

- ・生活に困っている人の相談センターで働いています。困りごとを減らしてそれぞれの地域で暮らしつづけるための、住民協働の地域づくりに関心があり、そのヒントの萌芽があったように思います。

- ・素晴らしい企画でした。こうした会を継続することで、行政内部も市民意識も変わってゆくことを実感いたします。現在、石川県の「シェア金沢」という日本版 CCRC～生涯活躍のまちづくりを学び実践しておりますが、前城さんの「つっぱしって後ろを振り返ると誰もついてこない」を経験し、PDCA を繰り返し前進しているところです。大変勇気をいただきました。「あきらめず成功するまで続ける！」を心に。

- ・「市役所であれ、市役所職員であれ、この町で共に働き、共に暮らす仲間である」「この街の全体のこと、未来のこと、子ども達のこと、などを考える地域愛が大切である」「自分たちのまちのことを考え、自分たちで決め、そして自分たちで行動する」

- ・・・協働のイメージとしての入門講座として、解りやすい講座でした。

〇浦添市として SDGs への取り組み現況は興味がある点でしたが、直接、市長から現況説明及び今後の取り組みへの姿勢を聞ける機会に出会えたことに、この講座の魅力を感じました。

- ・住民参加に必要な要素、(情報共有・関係性の構築・対等性)の大事さを改めて確認できました。前城さん「島袋さんとの出会いをきっかけに勉強・行動をされてきたお話」に共感しました。私自身もこれまで、個人的な関心事を中心に生活をしてきましたが、子を持つことになったり、地域とのかかわりができることでみんなのこと(公共)に少しずつ関心が生まれてきています。今回、アカデミーを受講したのも、「協働」について言葉は聞いたことはありますが、「じゃ、何をすればいいの？」と気づきや学びを求めていることでした。本日の開校講座からも多くの気づきがありました。松本市長の、地域の「前城さん」行政の「前城さん」を見つけるというお話にも賛同します。

アカデミーに市職員も受講されていることはいいなと思います。最近お話を伺う機会のあった佐賀県庁「デザイン課」のお仕事が面白かったです。行政では多くの仕事を抱えていて、誰が何をやっているのかが職員同士でもわかりづらい、それを「可視化」する課だそうです。例えば、二つの課が同時にかかわる案件の間に入り、市民との協働をサポートしたり、外部の識者とコーディネートしたりしてスムーズに作業を進めていくお手伝いをするそうです。市民の側にも地域の色々な課題を「見える」ようにしたり、「これは誰々さんに繋げばいいな」みたいに動く人がいるといいかもしれませんね。市民性教育(Citizenship Education)は初めてきく言葉でした。簡単に検索結果を見ただけですが、そういう教育はこれまで受けてきていないように思います。アカデミーを通して様々なことを学んでいけたらと思います。

- ・市民と協働して総合計画？を作ったということですが、実際ということなのか私は勉強不足でよくわかりませんでした。まだまだ勉強不足でわからないことばかりでした。また次回よろしくお願いします。

- ・市長、講師の前城さんの苦労話も聞けてよかったです。今後も、いろいろな分野で取り組まれている講師の登場を楽しみにしています。

令和3年度 浦添市まちづくりアカデミー
第2回

9月22日(水) 18時～20時
ZOOM 開催

第2回講座 『若者が取り組む地域協働の活動
(若者が抱える問題の取り組む事業展開)』



Bee freeの目的

- 就労のきっかけづくり、あるいは、ハチミツ作りがその方の仕事になれば
- 多様な人材が地域で活躍できる場づくり

講師: 宮城 仁太郎 氏 (Bee Free)
野口 萌香 氏 (Bee Free)

ひょうこりゲスト:
又吉 盛太 氏 (小禄南公民館)

モットー

- ① 楽しく
- ② 気楽に
- ③ ゆっくりと

※あくまで当事者のペースを配慮

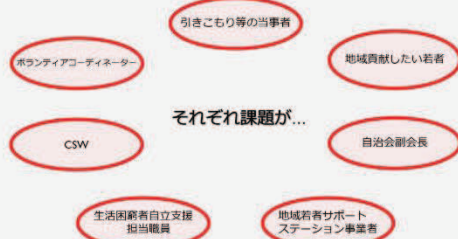


引きこもりの当事者も参加していて、当事者から『はちみつを作りたい!』と声が上がった。

当事者の方は自分の言ったことに責任をもって、活動には必ず参加している。



構成メンバー



誰とやるかが大事!

一緒に活動する人をどう選ぶのか?

- 話してみてフィーリングが合うかどうか
 - やる事業によって誰とやるかは変わる。
- お互いWin-Winの形になるような人達を巻き込んでいきたい
- 優しい人と一緒にやるのがいい

社会とのつながりを失い、孤立する若者の自立や地域のつながりの構築を目指す。そのため、CSWやサポステなどを構成メンバーに入れている。

- それぞれの課題 ○
- 当事者—コミュニケーションがうまくとれない
- 若者—何をやっていいかわからない
- 自治会—担い手不足
- CSW—地域資源を活用した新しい仕組みを作りたい

今後は...

・若者がまちづくりに目をむけてくれるような新たなプロジェクトの展開をしていきたい!
(ぶんぶんプロジェクトだけではなく、新しいカタチの地域貢献プロジェクトの立ち上げ)

・BEE FREEが中心となった新しいカタチの公民館をつくってほしい!!
(wi-fi完備、カフェのような空間を設けて勉強ができるスペースをつくるなど、若い世代が集まってくような公民館づくり、地域の人が集まるような場所に)



浦添市まちづくりアカデミー 第2回講座 アンケート結果

1. 今日の講座の感想をお書きください。

- ・若者支援サークル BEE FREE の活動紹介は1人の声に耳を傾け手探りで何も無い所から始めようと思われた中心者の思いに感動いたしました。まちづくりといってもやる気のある人の一念が実を結ぶんだなということを感じました。

- ・今回も素晴らしい講座ありがとうございました。私と同じ20代の若者が「地域のために」「誰かのために」活動しているお話を聞き、とても感動しました。と同時に私も負けられないなと思いました。これから、私にできること、私ならではのできることを少しずつ実施できたらなと思います。

- ・Bee Free の取り組みを詳しくご紹介いただき参考になりました。

- ・若い2人の活動に私も元気、やる気をもらいました。人とのつながり、ホント大事ですね。ハチミツみんなで食べれるよう期待しています♡

2. グループワークはいかがでしたか。

- ・グループワークの中で海の名前を考える話がありましたが、私はただこのまちで浦添市にふさわしいティダカンカンビーチと名付けたらどうかと思いました。又、今日活動紹介を聞いて私の住む地域でも人とのコミュニケーションが取れない子供達のために BEE FREE のような活動ができるといいなと思いぜひ実現させたいなと思いました。

- ・グループワークを通して、参加者の皆様が浦添（わがまち）のことを想い、浦添をよりよくするためにやりたいこと、やってみたいことなど共有できてとても良かったです。様々な案があり、とても楽しかったです。

- ・進行・取りまとめは講師（ホスト）がされた方がよいかなと思いました。ワークの時間は15分あると、もう少し議論できたかな。

- ・職種の違う皆さんの色々な話が聞けたので良かった。

大学の中に地域活動分野があり、それを利用して自治会とのつながりに力を入れることができる

ハチを買うには花が必要だがその逆で花や植物が育つためには、ハチやほかの虫たちの力が必要。ハチが住めなくなってしまう社会は、人間の命も危ない。

（ハチ育ては命づくりにつながる）

令和3年度 浦添市まちづくりアカデミー
第3回

10月6日(水) 18時～20時
ZOOM 開催

第3回講座『地域課題に気付いた時 その時どうする？ みんなで考えよう！一緒に動き出そう！』

講師： 合同会社 Happy joy ヒトコト専門家 代表社員
幸喜 穂乃 氏



SDGs的視点で浦添のまちの未来を想像し、
未来につながる“今”できることを考えてみましょう！

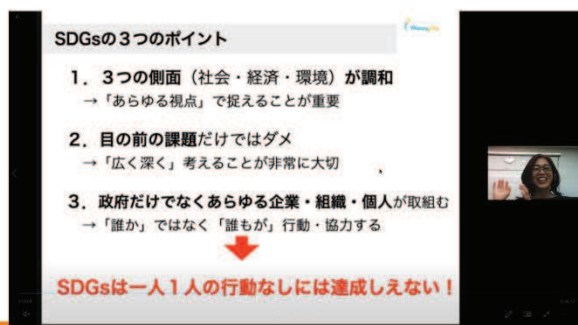
身近な気になること・問題だなあと感じることを

- グループ1：生活（食品ロス、貧困）
- グループ2：環境（生活排水、地球温暖化）
- グループ3：子ども（居場所、教育、スマホの低年齢化）

グループ
ワークを
しました！



- 何事にもつながりがあるから 広い視点で見ていく。
- その先に何があるんだろうということまで考えることが重要。
- 想像力をしっかり働かせて、問題だと感じていることに向き合っていく。
- 身近な気になることを自分ごと化しよう！



1. 今日の講座で学びになったことは何ですか。

- ・SDGsについてざっくりとしたことしかわからなかったので、詳しく教えて頂き勉強になりました。地域の課題を見つけ、SDGs的視点で未来の子どもたちにつながる“今”を想像し創造することが大切だと感じました。各グループの発表から問題提起も様々ないただけたので日々に活かしていきたいです。

- ・SDGsに関して、現在自分が持っている知識に加え、他の側面を知ることができました。

- ・環境（ゴミ・温暖化）、教育、経済、社会（現代社会とネット社会）、子どもの居場所づくりと、多岐にわたるキーワードにふれ、わずかな時間で思いを語りまとめるという情熱ある皆さんとの出逢いは本当に大切だと思いました。この企画を実行するまでの時間と労力を想像するとさらに頭が下がります。そうした思いが帰結した先に「限りある命・資源を活かし、未来を育てよう」という思いを唱え「心くばり」をしていくだけで、自然と環境は変わるのかなと思います。

- ・SDGsを基本に考えていくと、今自分が考えていることがどこに該当するのかの道しるべになるので、自分の気になるSDGsの項目を掘り下げる必要があると思いました。

- ・20分遅れての参加で前半聞けなかったのですが、それでも幸喜さんのお話がわかりやすくSDG'sをととても身近に感じ、自分にできることがいっぱいあるんだと思えました。正しいか間違いかの視点ではなく、より良い未来のために、みんなの幸せに向かっていくためのはじめの一步が（途中で切れてしまっています。）

- ・SDGs、持続可能な社会を創る一員になる。

2. 今日の講座を受けて、やろうと思ったことは何ですか。

- ・無駄を減らす、なるべくごみを出さないなど一つ一つの小さな事でも、それが未来につながっていることを意識し続けていきたいと思いました。

- ・身近なコトへの取り組みの強化。新たに何かを始めるということも大切ですが、現状行っていることのブラッシュアップができればと思いました。

- ・まちづくりアカデミーの存在そのものを、職場や家庭で語ることからはじめようと思います。そのうえで、この感想シートに自分の思いを整理することは大切ですね。「限りある命・自然を活かし、未来を育てよう」まずは、その思いをしっかりと自分の心にすえて、共有できる方々を増やす努力をしていきます。

- ・幸喜先生のお話にあった、トレードオフの解決法も併せて考えていかなければいけない。

・福祉の仕事をしているのですが、自分の職場でSDGsの視点、考え方で何ができるのかをおもいつくまま書いてみて行動しやすい事から初めてみたいと思いました

・これまで通り、ごみ拾いや無駄な買い物を控え、足元のゴミの減量化を続ける。道路緑地帯の草刈りを続けて、ポイ捨てを減らす。

3. 今日の講座の感想をお書きください。

・グループセッションが増えてきて、参加者の皆さんのお考えを伺える機会も増え、色々な気づきにつながり勉強になっています。同じ浦添市民としてこんな風に一緒に子どもたちの未来について考えを伝えあえる時間、とてもありがたく元気と勇気をいただきます。まだまだ分からないことがたくさんあるので毎回学びに喜びを感じています。皆さんといつかリアルでお会いできる日も楽しみです。

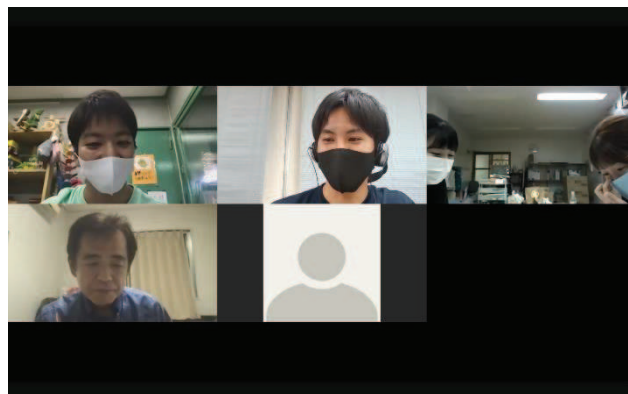
・現代社会において、旬な話題で問題定義していただいたので大変興味深く聞くことができました。

・みなさんと朝までトークしてみたいです（笑）できれば飲みながら（お茶でもOK）

・浦添市がより安心な街になって、地域の大人が未来を担う地域のこども達みんなを守れるようなまちづくりをしたいです。コミュニケーションの取り方が変化していますが、インターネットだけでなく、直接会って言葉を交わすという基本的な交流を復活させる何かがあればと思います。

・とても楽しく学べました。ありがとうございました。

・グループワークで、若い人の積極的な意見にとっても感心しました。



グループワークの様子

令和3年度 浦添市まちづくりアカデミー
第4回

10月20日（水）18時～20時
ZOOM 開催

第4回講座『協同・共同・協働 地域と一緒に考え行動する防災訓練』

講師：一般社団法人 まちづくりうらそえ 代表理事
大城喜江子 氏

ひょうこりゲスト：与那原 孝 氏



子ども達が活動する意義：地域課題に向き合うきっかけ

※なぜ防災避難訓練？（きっかけであり手段）

1. 子どもたちに住んで良かったと思える地域にしたいな（愛着と故郷づくり）
2. 住んでいる地域に興味と関心をもって好きになると良いな（意識すること）
3. 地域住民。大人たちの見守りがあるという実感があると良いな（繋がり感と存在感）
4. 子どもたちの活躍の場ーチャレンジする（主体性）

↓

帰ってこれる場所がある（居場所）
生きる力と、生き抜く力につながるように！

↓

地域を知って（足元）、課題を見つけ（意識）、行動する（解決策）

↓

活動費：どこどこプロジェクト（助成金）への挑戦
地域散策・福祉体験・避難マップづくり

中学生が地域課題への取組

＊地域の課題

安謝川沿いの海拔2メートル地域の保育園や住民は、地震等があった場合、小学校やセンターへの避難はどうする？

＊児童センターの課題

福祉避難施設として指定されているが、情報もガイドラインもない

助成金を活用して地域散策・福祉体験・避難マップづくりに取り組む

↓
中学生の「地域あげての避難訓練が必要でしょう！」の声を具現化！！



「沖縄テレビ 2015 年 4 月 7 日 放送」



感想

（どう、連携・協力を
得ていくのか？）

『こちらから
顔を出していく。
自分をしてもらう』が
心に残りました。

『きょうどう』とは
地域を知って、
課題を見つけ
行動する。を様々な
人々と連携・協力して継続
していくこと。でしょうか。

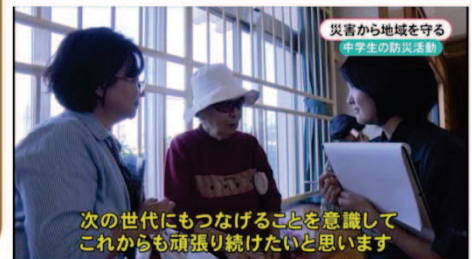
老いも若者も子どもも
一緒になって行うことの
大切さを実感しました。

6年前はそんなに
地域のことを
知らなかった。
森の子と防災訓練に
関わり始めて
少しずつ地域のことを
知ることが出来た。

マンネリ化が現状。
避難訓練だけでなく
自治会を構成している
自治会員（住民）の
意識のマンネリ化が課題

公民館に
とって
大事なことは
若い人が地域を
愛すること。

大人は
子ども達が
地域を
愛せるように
仕掛ける



「沖縄テレビ 2015 年 4 月 7 日 放送」

1. 「きょうどう」についてイメージがつかまりましたでしょうか。

・地域を知って、課題を見つけ、行動する。を様々な人々と連携・協力して継続していくことでしょうか。「きょうどう」が具体的になっていきました。

・大変分かりやすい説明と実演に感動いたしました。中学生が中心になっての防災訓練というのは素晴らしいですね。2000件のチラシを配って400件参加したことはすごいことですね。回を重ねるごとに100%の方々が参加できるようになるのでしょうか。

老いも若いものも子どもも一緒になって行うことの大切さを実感させられました。

夜間の防災訓練という発想は大事ですね。災害は昼とは限りませんからね。

2. 今日の講座の感想をお書きください。

・内容はとても大事でした。意見を述べる事が出来て良かったです。

・大城さんからの返答、(どう、連携・協力を得ていくのか?についての)「こちらから顔を出していく。自分を知ってもらおう」が心に残りました。ありがとうございます。

・代表理事の大城喜江子さんの活躍、行動力に脱帽です。私たちの住む港川中学校校区でも民生委員とCSWが中心になってボランチュキャンプを行い、その中で防災マップや地域の色々な場所を確認したりということを行ったことがありましたが、そこには中学校校区の11自治会の自治会長さんも参加して地域子ども達と触れ合うチャンスをつくってきました。今年はコロナ禍で行うことはできなかったのですが、児童館でもカレー作りをしてその中から気になる子どもの発見や家庭を知るきっかけになればということで児童館の職員と民生委員と自治会長さん等と協力して行ってみました。

『中学生と取り組む防災についての様子』



「沖縄テレビ 2015年4月7日 放送」

令和3年度 浦添市まちづくりアカデミー
第5回

11月7日(日) 10時～13時
場所：なは市民協働プラザ

第5回講座『市民と行政の協働の取り組み なは市民協議会の発足と活動』



講師：饒波 正博 氏（なは市民協議会）
知念 忠彦 氏（なは市民協議会）
渡嘉敷 博美 氏（なは市民協働プラザ）

ひょうこりゲスト：横山 芳春 氏

なは市民協働プラザにて、施設の視察、
なは市民協議会のお二人・なは市民協働プラザ職員、
協働を沖縄で最初に始めた横山 芳春氏（元那覇市市職員）より
那覇の『市民と行政の協働の取り組み』について
お話を聞きました。

市役所職員と地域住民が
地域の隅々まで一緒に回り
調査をして
『地区ビジョン
（第3次那覇市総合計画の
もとなるもの）』を
作りました。

なは市民協議会では、
活動成果として
『まちづくりおたすけ本』を
作成しました。

地区ビジョンを受けて那覇市は、
基本構想に
『市民との協働におけるまちづくり』を
積極的に進めていくことを位置づけた。

阪神淡路大震災の経験が
基本構想に影響した。



○ 受講者の感想 ○

那覇市の協働のまちづくりが30年近い
時間の蓄積で成り立っていることに
素晴らしいと思いました。
また、継続することの力を実感しました。
成熟した町のあり方だと思います。

○ 那覇市の協働の指標 ○

利用団体の登録者数。委託・共催などの数。
協働大使の数など。

協働の指標は、数だけではなくて、
何のために活動するのかを
突き詰めていかなければならない。



「琉球新報 令和3年11月16日 火曜日 掲載」

浦添市まちづくりアカデミー 第5回講座 アンケート結果

1. 今日の講座の感想をお聞かせください。

那覇市の協働のまちづくりが30年近い時間の蓄積で成り立っていることに素晴らしいと思いました。また、継続することの力を実感しました。成熟した町のあり方だと思います。

2. 浦添でできそうなことはありますか。

この浦添市まちづくりアカデミーが浦添の協働の始まりになるかもしれません。過去の受講生や次年度以降の受講生が引き続き交流できる場があるといいと思います。人と人が結びつくことで問題提案、解決の力になると思います。

『第5回講座の様子』



「なは市民協議会の取り組み（知念氏、饒波氏）」

「意見交換会の様子」



「第5回講座 集合写真」

令和3年度 浦添市まちづくりアカデミー
第6回

11月17日(水) 19時～21時
場所：ハーモニーセンター

第6回講座『私も一緒に作りたい浦添市！ 市民と行政とともに！』

講師：NPO法人 まちなか研究所わくわく
宮道 喜一 氏



○ ワーク内容 ○

- ・自分が思っている事、
気になっている事(課題)
- ・こういう風に変えたい！
- ・私に何ができる？
(取り組みたいこと)

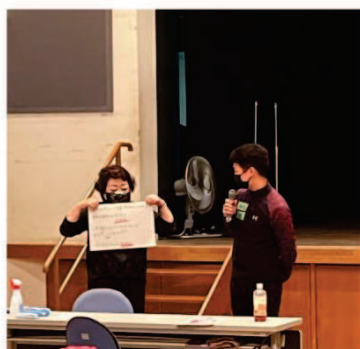
ペアワークで
自分が日ごろ気になっている
課題について深堀しました。



○ 関心のあるテーマ ○

子ども、環境、教育
貧困、生活排水、福祉
食品ロス、公民館活用(若者)

お互いの想いを聞きあって
整理しました。

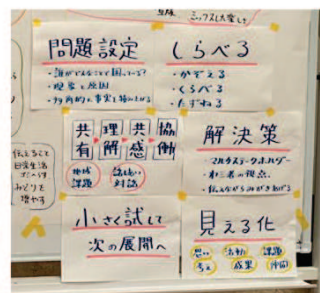


発表の様子



宮道 喜一 氏

受講者の言葉を見える化



活動をする際に
意識する必要が
あること



浦添市 まちづくり アカデミー

★6回

2021.11.17(水) 19:00~21:00
@11-モニ-センター1F

プログラム

19:00 オリエンテーション

市内で活動している団体紹介

19:20 ペアワーク

休憩

発表

まとめ

21:00 連絡事項

松本 綾
あいさつ

自分たちができること
自分たちでつくっていく
味わい深い浦添市へ
ワクワクする時間を

まちづくりプラン助成金

でこの都市・浦添
の実現

ぶんぶんプロジェクト

(若者支援スクール・ビー・フー)

海の名前からはじまるまちづくり

(里海のあるまち・うらみえプロジェクト
実行委員会)

防災に強いまちづくり福祉避難所

(NPO法人シンゴパ・ジョン
「コミュニティ・はら・はら」キッズ)

舞台や地域に活かそう!

次世代うらみえ平和イデにチャレンジ!

(浦添市・うらみえプロジェクト)

ペアワーク

子ども 貧困 環境 生活排水
福祉 食のロス 公民館活用
(若者)

- 自分が思っていること
気になっていること(課題)
- こういう風に変えたい!
- 私に何ができる?
(取り組みたいこと)

ペアでお互いに
ききあいます

発表

公民館活用

夏休み期間中のラジオ体操
居場所・あそび・学び

公民館

今の～ これからの～
おじいちゃん 公民館ネットワーク
おばあちゃん 若者に魅力ある活動
若～人 若～人 若～人 若～人
地域(若～人)の中心
世界から学ぶ
公民館+児童センター

子どもたちのあいさつ

コミュニケーション
コロナの影響
皆が積極的にあいさつ
できるように

4

スケボー場

思いきり、気がるに
スポーツできる場な
ストリートでできるスポーツ
ざわっと浦添に集まったら

中高生の声
あつめる
今ある場所
1377
1233
スケボーパーク
暑さあつめ、涼しい
ところ

子どもたちが

居場所のつくりかた

発達障がいの子
ゆいゆい、ボウ・これ
行・てみえ
居場所・さがし
の選択服を増やし
みつけられる環境を

キャンピングカーあと地

どんなまちで暮らす?

商業的施設を
つくりたい
浦添市のシンボルはいい
カーミージーの環境を守って
市民みんなで

食品ロス

子ども食堂で利用
コンビニで売れ残った
1リットル
えんじの残り(おむすび)
買物のしちと変える
学校での牛乳の活用

環境

自然に生き生きと暮らす
車からのCO2を減らすこと
生活排水→海川の汚染
1人→2人→3人
ひろがっていく

伝えること
日常生活
でできる
おどりを
増やす

美しい景観

ちょうまち松ヶ崎-2000名以上
MAPがない
おいてるが減ってない
条件がある
西海岸のゴミ99%
景観まちづくり
景観MAP
互換
シェアしたあつめ

問題設定

誰がどんなことと困っている?
現象と原因
99%的の事実と強み

しるべ

かぞえる
くさる
たずねる

共有 理解 共感 協働

解決策

マルチステークホルダー
お三方の視点
伝えあえるみがかあつめ

小さく試して

次の展開へ

見える化

思い
考え
活動
成果
課題
仲間

浦添市まちづくりアカデミー第6回講座アンケート 結果

1. 今日の講座の感想をお書きください。

- ペアワークの中でそれぞれの発表に学ぶことが多く私にできることが何なのか又やれることやりたいことが見つかったこと又スケボーの場所ができると良いなというのは私も前々から考えていました。
- 浦添市の問題や私たちができている化していてよかった。
- ペアワークで、自分が浦添のために出来ることを話して、文字に起こして、見える化できてよかった。また、皆様の意見も聞けて良かった。
- まとめかたがとても良かったです。
- みなさんの意見がきけて良かったです。
- 各テーマに沿った、各個人のアイディアが見れておもしろかった。パートナーとなった方とは、同じテーマだが、私とは違うアイディアが生まれて、感銘を受けた。
- たったこれだけの人数でこんなに意見、提案、思いすごい
- 書き、まとめ、ホワイトボードの宮道さんすごい
- テーマの異なる方と話し合ったのですが共通点が多く自分にとってとても学びになる時間でした。
- リアル対面で、浦添市の課題について話のできたので熱が入りました。
- ファシリテーションでのまとめもとても良かったです。
- 初めての体験だったので、おもしろかったです。
- 質問してもらいながら、自分の考えを伝えることで再度、整理や確認が出来ました。児童センターの活動を色々学べてペアワークを通して学べるのが色々ありました。宮道さんに見える化していただき最後にまとめて下さり、更におとしこむことができ、感動しました！！
- 第3回の時とは違うテーマで参加したのですが、自分の思いや考えを2人1組で相手に伝えることができたと思うのでいい経験となりました。また、同じ考えを持った人がいるのだと改めて実感しました。
- 多様な人の多様な考えをまとめる方法が面白かったです。
- 私が浦添市で課題と考えている事の解決に向けたヒントを聞いた。

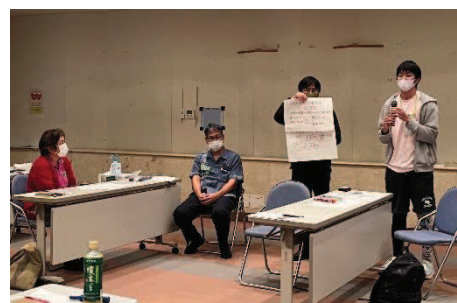
2. 第7回の最終講座に期待することをお書きください。

- ・浦添市民の多くの方々に浦添市まちづくりアカデミーのことを広くアピールできることが出来る
と私たちがこれまで学んだ成果が得られるのではと思います。
- ・色々な方に本日発表した内容を見て、協力してくれる方がいたらいいです！！
- ・小さなことから楽しんで実施できると良い。
- ・イメージがわからなくて、、、参加が楽しみです。
- ・協働（共有、共感、理解）の大切さを再認識できるような会に。
- ・アウトプットすることで又色々な気づきや学びが得られそうで楽しみです。
- ・話したことをうまく伝えられたら良いかと思います。最終ということなので、今までの講座のふり返りができたらいいです。
- ・どのようなワークになるか楽しみです。
- ・市の協働の取り組みに対する本気度。

『第6回講座の様子』



「ペアワークの様子」



「発表の様子」



「ライティング（見える化）」



「フィードバックの様子」